

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1172502211		
法人名	社会福祉法人 桑の実会		
事業所名	康寿園グループホーム輝		
所在地	所沢市東狭山ヶ丘6-2796-1		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和5年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「桑の実会が運営母体となっているグループホームである。「その人らしく輝いてほしい」という理念のもと、職員は利用者の伴走者となれるよう介護に励んでいる。廊下を含め、共有スペースも広くゆとりがある作りとなっている。コロナ前は地域交流室にて自治会やボランティア会議など地域活動に開放していたが、コロナウィルス感染防止のため中止となっている。それに伴い、習字、絵手紙、音楽療法など多様なボランティアの来訪も中止し、職員によりレクリエーションとして行っている。地域との関わりとしては通学時間に通学路に立ち見守りをおこなう、マラソン大会にはコースとなるホーム前にて応援をおこなうなどを行っている。運営推進会議もコロナウィルス感染防止の観点で開催中止している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・利用者の言葉にできない思いを把握するために寄り添って話を聴き、利用者のペースに合わせて支援をされ、理念のもと、その人らしい笑顔のある日常が過ごせている。また、イベントは毎年異なる企画で開催され、食事は全て手作りで「ありがとう、おいしかったよ」の言葉を最大の喜びとされている。
 ・運営推進会議は、コロナ禍から開催されず、中止の連絡のみとなってしまったが、利用者や事業所の様子は都度報告がなされ、家族からは「全入居者のことをよく把握されている、ありがたい」と評価されている。今後は書面にまとめメンバーにお知らせすることを検討課題とされている。
 ・目標達成計画については、前年度は厚生省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、課題を設定し、災害対策として継続的災害対策を目標とされ、事業所の特性に合った計画を策定され、今年度から実施されることになっていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	毎月のユニット長会議で施設長会での決議の報告があり法人の動きの共有、ユニット会議で実践、研修に取り組んでいる。 新入職員には、入職時に管理者が説明、指導を行い、法人の新人研修へも参加し、理念の共有に取り組んでいる。	職員は個別性を大切に、その人らしい生活が送れるように利用者のペースに合わせた介護で支援をされている。利用者にとっての安心感を常に考え不安のない暮らしに繋がられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流はコロナ渦で全く行っていない。 小学校の登下校の見守りは続けている。	ハロウィーンでは小学生が作品を届けてくれたり、地域のマラソン大会では旗を振って応援をされている。また、畑の水やりや苗植えなどを楽しまれているが、今後はボランティアと協力し、収穫した野菜を活用したイベントが計画されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ渦で地域との交流は中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、学校、地域、民生委員、行政、利用者家族などから構成されているが、コロナ渦により開催されていない。	コロナ禍から運営推進会議は開催されず、中止の連絡のみとなっているが、利用者や事業所の様子は家族へ書面で伝えられ、意見・要望も頂いている。	コロナ禍から開催が難しい状況ではあるが、利用者の様子や事業所の取り組み状況など書面にまとめメンバーに届け、いただいた意見・要望をサービスに活かしていくことに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の実績、待機者報告、運営指導などでの連絡や、質問などで連携をとっている。	市からは研修や介護保険情報などメールでお知らせがあるが、書類提出や相談事にはできるだけ市に出向き、直接助言をいただいたり、顔の見える関係作りに努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的にユニット会議にて研修、事例検討をしている。身体拘束をしないケアを原則としているが、緊急やむを得ない場合、家族の了承をとっている。	身体拘束委員会で話し合われた内容は職員間で共有し実践されている。スピーチロックの事例では、意欲低下⇒認知症悪化⇒寝たきりになることを防ぐために言葉を言い換えるなど具体的な対応方法を学ばれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にユニット会議にて研修、事例検討をしている。なにが虐待にあたるのかを話し合い、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人としての準備はあるが、職員が学ぶところまでは到達していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を読み上げ、説明。質問事項に答え、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時、できる限り声をかけ、思いを聞くようにしている。家族が参加しての行事もコロナ渦により中止。	利用者からは日々の会話の中で聞き取られ、得意なことや行いたいことは行事として実現されている。家族とは面会時や電話等で聞き取られ、サービス向上に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時意見を聞き、迅速に対応している。年度末に個人面談をし職員の意見を聞くとともに次年度の事業計画に反映している。	ユニット会議で、利用者の状態に合わせた食事形態や介助方法などが提案され具現化されている。また、イベント企画も毎年職員が企画書を作成し、毎回、内容が異なる活動が提供され、利用者の楽しみになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内キャリアパス要件に則り、評価、定期昇給に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は内部、外部の研修を受ける機会がある。新入職員には新人研修が設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症により、管理者会議など中止になり行われていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族にアセスメントしコミュニケーションをとり、本人に安心していただけるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いも重視し、ホームとしての対応など事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を見て、家族、担当ケアマネジャーと相談し、本人にとってよい支援を工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中の調理、洗濯、掃除など一緒に行うことで、教えていただいたり、教えたりの関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	窓越しの面会を行っているため、生活空間には入れないが、ない月のお便りや電話などで、状況をお知らせして安心いただいている。自分のきもちを表現できない利用者は特に家族の意向を尊重している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦のため中止。	着付けやお琴の生徒たちが訪問されたり、茶道・華道師範の利用者にはお茶をたてたり花を添えていただくなど、得意なことを活かした支援が行われている。また、DVDで昔の家電を見たり音楽を聴かれるなど昔を思い出していただけるよう取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の流れがうまくいくように、必要に応じて職員が輪の中に入るようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほかの施設に移られた方等コロナ渦のため会えていない。家族も面会の制限ありできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「どうしたいのか」を聞き取る、考えることに力を入れている。どうしたらかなえられるか、カンファレンスにて話し合っている。	日頃から利用者とは信頼関係を作ることを第一に、言葉にならない声を聴き取られることに努め、生活の中で想像したり探りながら、利用者の思いを汲み取られている。少ない選択肢やイエス、ノーで答えられるように工夫し、ジェスチャーも交え思いを把握されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントからの情報のみでなく、日常の会話からの新たな情報を共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や区長を観察しながら日々の活動を促したり、休息を入れたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランには、家族の方より聞いた生活歴や本人の意向を重視し作成している。	ケアプランは「わかりやすく」をモットーに作成され家族からも見やすいと評価されている。毎月モニタリングを行い、見直しが必要なときはカンファレンスで内容を検討され、適切な介護計画書が作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ブルーオーシャンへの入力なので、日々の様子が細かく記録され、ケアプランが実施されているか見やすくなった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長期入院が困難な場合等臨機応変に早期退院にて受け入れたり、状況に応じて柔軟な対応をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域ボランティアは中止している。地域での避難訓練も中止となっているため、消防署、民生委員、地域との協力体制は脆弱になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の意見をききつつ、家族への連絡を図りながら連携している。	月2回の往診と看護師の健康相談が実施されている。整形外科や皮膚科など専門医受診が必要なときは職員が付き添い、診察内容は往診医・家族・職員に報告がなされている。また、ICTを利用し往診医・薬局とやり取りができる仕組みができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携チャットを利用し、いつでも主治医に相談できる体制にあり、日常的に入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じて病院相談員、医師とカンファレンスにて状況の話し合いをおこなったり、電話にて状況をきいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去に2件のターミナルケアをおこなったが、今年度は該当なし。ご家族、本人の以降を聞きながら、主治医、家族の協力をいただき、必要に応じて実施していく。	重度化や終末期については都度、利用者・家族と話し合い、意向に沿った対応がなされている。職員は緊急時対応についても学ばれ、医師や看護師の指導のもと、チームで支援をされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	例年救命講習を受けていたが、コロナ禍で消防署立ち合い中止のため内容は不十分である。緊急時のマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月11日は法人内の安否コールの確認メールが届いたり、委員会を立ち上げ、法人内でBCPの作成をした。来年度よりそれをもとに全職員への研修が予定されている。	消防署立ち合いのもと、避難訓練が実施されている。また、毎月1日に避難方法や備品の確認も行われている。今回は消防署からの電話を受ける場所に職員がいなかったことが課題で今後の対応方法を検討されている。法人としてBCPが作成され、今年度から実施されることになっている。	様々な場面を想定した避難訓練が実施されています。消防からの連絡が瞬時に受けられるよう体制を整備し、消防との連携強化及び組織力の向上に向けた取り組みに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格、人格を尊重し、それぞれに対するケアを行っている。居室へ入るときはノックをする等、プライバシーには気を付けている。	利用者へは常に尊敬の念を持ち、個別性に配慮した言葉掛けで利用者との信頼関係作りに努められている。一人ひとりの生活に合わせ対応され、心地よく過ごせるように取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しかけを工夫し、理解できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	活動などはその人のペースに合わせて行えているが、食事時間、入浴時間などは決まった時間にて実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月に美容師が来園し、ヘアカット、ヘアカラー、をしていただき、お化粧品やマニキュアなどもたのしんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き、嫌いを考慮している。準備、片づけも協力しながら行えている。	食事やおやつは全て手作りで、利用者にはジャガイモの皮むきやキヌサヤの筋取り、食器洗いなど手伝っていただいている。彩りにも配慮され、イベント時には特別食やケーキなども提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	居宅療養管理栄養指導にて、栄養士よりの助言アドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科との契約により週1回歯科衛生士来園。口腔機能維持管理に係る助言、指導を受けて口腔ケアをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	カンファレンスにて話し合い、それぞれのタイミングと援助方法で支援している。	失敗をしても恥ずかしくない言葉掛けで、利用者の羞恥心に配慮をされている。トイレでの排泄が基本ではあるが、排泄状況を観察し個々に適した方法で介助され、自立支援を意識した取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のリズムを個々に把握し、医師、家族と相談しそれぞれに合った、下剤の調整、誘導の時間の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日と時間は決まってしまう。拒否があるときは無理強いせず、時間をずらす、日を変えるなどの工夫はしている。	好みの温度でゆっくりつかりたい人、職員2人対応の利用者など一人ひとりに合わせ臨機応変に対応されている。入浴剤や季節湯等使用されることもあり、ゆったり湯船につかり、入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前はフロアや居室でゆったりと過ごしていただいている。昼夜逆転の場合でも、日中の活動をふやしたり、工夫をしている。時には、主治医に相談し体質改善等の服薬をすることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスの危険性を十分認識している。ダブルチェックなどの対策により重大なミスはない。薬情確認、薬剤師よりのアドバイスを受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	就寝前のノンアルコールビールや近所への散歩など、楽しめるものを考え支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦で遠出はできないので、陽気の良い日は施設周りを散歩している。	初詣は熊野神社へお参りに行かれているが、日頃も小学校で遊ぶ子供の姿や富士山を眺めたり、施設周辺の森や神社を散策し森林浴を楽しまれるなど外出は気分転換の一つになっている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理の難しい方が多いため事務所で預かっていることを伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	依頼があるときには随時援助している。 手紙も必要時の援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁紙や、季節の行事(お正月、雛祭り、お月見、クリスマス、七夕)にも飾り、季節感をもっていただけるようにしている。 窓を開けての歓喜、居室の自動換気、室温も定期的にチェックしている。エアコンフィルターも定期的に掃除をおこなっている。 玄関には四季折々の花の植木がある。	窓が大きく開放的なリビングで明るくゆったりとした空間が広がっている。広いテラスでは外気浴を楽しまれるなどすっきりした空間で自由な時間を過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときは察知し、声をかけず見守りをするようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、ご家族と一緒に居室作りをしている。 生活・身体状況に合わせ、適宜ベットの位置、家具の配置を変えている。	自宅から持ち込まれたクローゼットや仏壇が利用者の好みに配置され、家族写真や作品などが飾られている。また、クッションマットを敷き、転倒時の打撲や怪我のリスクを回避されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要などころに手すりの設置、夜間の照明の工夫、家具の配置など安全と自立を支援している。		

(別紙4(2))

事業所名: 康寿園グループホーム輝

目標達成計画

作成日: 令和 6年 5月 19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議中止時は、中止の連絡だけではなく、ご加増以外の参加者にもホーム内での活動や取り組みなど書面にまとめて伝えると良いとの助言。	運営会議開催時、中止時ともに地域との連携、情報の共有をはかる。	推進会議中指示は、書面にて活動内容をまとめ、返信にてご意見を頂けるよう工夫する。	6ヶ月
2	35	様々な場面想定での避難訓練の実施、消防からの連絡を瞬時に受け取れるよう体制の整備について助言。	職員一人一人が、緊急時の対応、特に消防との連携がスムーズにいくよう体制を強化する。	月初めの自施設消防訓練にて、災害に関する意識確認や、研修により日頃から知識をつけ消防との連携強化および、組織力の向上に向け取り組む。	ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。